

◎ロタウイルス胃腸炎とはどんな病気でしょうか？

口から侵入したロタウイルスが腸管に感染して発症します。感染力が非常に強く、手洗いや消毒などをしっかりしても、感染予防をすることが難しいため、乳幼児のうちに、ほとんどの子どもが感染します。下痢や嘔吐は1週間程度で治りますが、下痢、嘔吐が激しくなると、脱水症状を起こす場合もあり、乳幼児の急性胃腸炎の入院の中で、もっとも多い感染症です。一生のうちに何度も感染するウイルスですが、初めてロタウイルスに感染した時は、特に重症化しやすく、まれに脳や腎臓に影響をおよぼすこともあり、注意が必要です。生後、すぐに感染する場合もあるので、ワクチンの接種は、早い時期に完了させます。

◎ロタウイルスワクチンとは？

ロタウイルスワクチンは2種類あり、どちらも生ワクチン（弱毒化したウイルス）で、口から飲むワクチンです。医療機関で相談し、どちらかのワクチンを選んでください。2種類とも、効果や安全性に差はありませんが、接種回数が異なりますので、他のワクチンとのスケジュールなどを考慮して選択します。なお、基本的に途中からワクチンの種類を変更することはできませんので、最初に接種したワクチンを2回目以降も接種します。

初回は、出生6週0日後から接種できますが、生後2か月から接種を受けることができる他のワクチンのスケジュールを考慮して、生後2か月から出生14週6日後までに接種することが推奨されています。なお、このワクチンは、ロタウイルス以外の原因による胃腸炎は予防できません。

ワクチン名	ロタリックス（1価ワクチン）	ロタテック（5価ワクチン）
接種時期	出生6週0日後から24週0日後まで ※	出生6週0日後から32週0日後まで ※
	どちらのワクチンも、初回を生後2か月から出生14週6日後までに接種することが推奨されています。	
接種回数	2回接種（27日以上の間隔をあける）	3回接種（27日以上の間隔をあける）
成分の違い	[経口弱毒ヒトロタウイルスワクチン] 通常ヒトに感染する、ヒト由来ロタウイルスを弱毒化したウイルス（1種類）	[5価経口弱毒生ロタウイルスワクチン] 動物由来のロタウイルスに、ヒト由来ロタウイルス遺伝子の一部を入れ替えて、ヒトに感染できるようにした弱毒生ウイルス（5種類）
予防効果	どちらのワクチンも有効性は同等と考えられています。ロタウイルス胃腸炎の発症そのものを7～8割減らし、入院するような重症化は、そのほとんどが予防できます。	
接種後、特に注意する事	どちらのワクチンも、接種後（特に1～2週間）は腸重積症（後述）の症状に注意し、症状が見られた際には、すみやかに接種した医療機関を受診してください。	

※出生日の翌日を1日後として算出し、生まれてから6回目の同じ曜日が、出生6週0日後となります。

[ワクチンを接種する前]

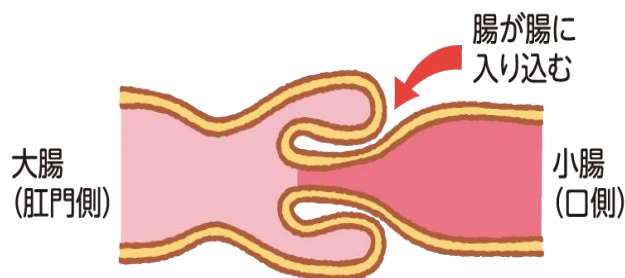
赤ちゃんのお腹がいっぱいだと、上手にワクチンが飲めない場合がありますので、接種前30分ほどは授乳を控えることをおすすめします。上手に飲めるよう、医師、看護師の指示に従ってください。なお、ワクチンがうまく飲めなかったり、吐いたりしてしまった場合でも、少量でも飲み込んでいれば一定の効果はありますので、再度接種する必要はありません。

[ワクチンを接種した後]

ワクチン接種後30分間程度は、医療機関でお子さんの様子を観察するか、医師とすぐに連絡をとれるようにしておきましょう。ワクチン接種後2週間ほどは、赤ちゃんの便の中に、ワクチンのウイルスが含まれることがあります。おむつ交換の後など、ていねいに手を洗ってください。高熱、けいれんなど、異常を感じた場合は、すぐに医師の診察を受けてください。

◎ロタワクチンの副反応（腸重積症について）

接種後1～2週間は「腸重積症」に注意が必要です。腸重積症とは、腸が腸に入り込み、閉塞状態になる病気です（下図）。ワクチンの接種にかかわらず、生後3か月～2歳くらいまでの赤ちゃんがかかりやすい病気です。できるだけ腸重積症の起こりにくい早めの時期に接種し、早めの時期に完了させましょう。初回接種を生後15週以降に受けることはお勧めしていません。



- 突然火が付いたように激しく泣く
- 嘔吐を繰り返す
- 便に血が混じる
- ぐったりして顔色が悪い
- 期限が良かったり不機嫌になったりを繰り返す

腸重積症は、手術が必要になることもあります。発症後、早く治療すれば、ほとんどの場合、手術をせずに治療できます。上記のような様子が一つでも見られるときは、速やかに医療機関を受診しましょう。

◎予防接種を受けることができないお子さん

明らかに発熱（通常37.5℃以上）している人や、重度の急性疾患にかかっている人、過去に同じワクチンで強いアレルギー反応が出た人は、接種することができません。また、未治療の先天的な消化管障害のある人や、過去に腸重積症をおこした人、重症複合型免疫不全（SCID）のある人も、接種できません。このほかにも、接種を中止したり、延期したりしたほうがよい場合がありますので、予防接種を受ける日には、あらかじめ予診票を記載して受診し、医師と相談してください。